

Maruka News





皆さん 明けましておめでとうございます。

令和6年の年が明けました。皆さんには年末年始の7日間の休みをいかに過ごされたでしょうか。ゆく年くる年をご家族やご友人と一緒に普段とは少し違った時間の中で過ごされたことと思います。

皆さんは初詣には行かれたでしょうか。益々将来が見通しにくくなり、今年の運勢を神様に託した人も多いと思います。年の始めですので日本の神様と文化について少しお話ししたいと思います。

古来より、日本の神様はユダヤ教やキリスト教、イスラム教のような神は常に天に君臨する唯一の神であって、「ホストの神」とは全く逆である、そこかしこにおいてになる八百万の神様であって、時折どこからかやってきて、そのあとでさっさとどこかへと帰っていく「ゲストの神(客神)」と考えられてきました。

一例としては、年末に今年の歳神様をお送りし、来年の歳神様をお迎えます。その際に目印として家の門前に門松を立てますが、この風習も今ではほとんど見ることがなくなりました。

また、日本の神様は唯一絶対ではなく、山の神、海の神などその土地ごとに人々の生活の場のすぐそばにいらっしゃる。そして、神社や各家々の神棚などにお迎えます。この様に多様化の先端を行くのが日本の八百万の神様だと言えます。

この多様な神様に囲まれて育った日本人の特徴として、「アナロジー(連想力)」が得意であると言えます。それは、外から取り込んだ価値を自分流にアレンジし直すことに発揮されます。古くは中国から取り入れた漢字から仮名文字を生み出す、近くはカフェラテから抹茶ラテを、拉麺から醤油ラーメンや味噌ラーメンを生み出す、など外部から来たものを日本風に「アレンジ」する創造力は時代が変わっても一向に衰えがないと感じます。

世界はVUCAの時代といわれ、日本もこの時代環境に翻弄されています。けれども少し視点をずらせば、VUCAはすべて日本文化に内包してきた特徴であり、得てもあると言えます。つまり、今に伝わる文化を見れば、変化に寄り添い(Volatility)、不確実なもの

遊び(Uncertainty)、複雑さを暮らしに生かし(Complexity)、曖昧さを共有してきた(Ambiguity)、ということです。コスプレとJポップと歌舞伎は、表層的に見れば一見バラバラのようですが深層的には同じ文化的なものであると思います。

八百万の神とともに、VUCA的な環境を取り込んで文化の豊かさに変えてきたのが、日本であると言えると思います。

さて、今年の干支は「甲辰(きのえたつ)」です。(例年通り安岡正篤氏の書物を参考にします。)

「甲」の意味するところは鎧です。鎧をつけた草木の芽が、その殻を破って頭を少しだけ出したという象形文字です。人事に当てはめると、旧体制が破れて、革新の動きが始まるということの意味です。実践的に考えると、この自然の機運に応じて、旧来のしきたりや慣習を破って、革新の歩を進めなければならぬということです。

一方で「辰」の意味するところは、理想に向かって辛抱強く、かつ慎重に、いろいろの抵抗や妨害と闘いながら歩を進めていくという意味です。

したがって「甲辰」の意味するところは、ちょうど春になって、新芽が古い殻から頭を出すのであるが、まだ余寒が厳しくて、勢いよくその芽を伸ばすことが出来ない。

同じように、旧体制の殻を破って、革新の歩を進めなければならぬのであるが、そこにはいろいろの抵抗や妨害があるために、その困難と闘う努力をしながら、慎重に伸びてゆかねばならぬということです。

これを昨年の「癸卯(みずのとう)」と来年の「乙巳(きのとみ)」と比べてみると、昨年の「癸卯」は筋道を通さなければ、物事が紛糾して始末がつかなくなり、場合によってはご破算になるそうです。

ですから、昨年において筋道を通すことを怠り、收拾すべからざる行き詰まりになっているならば、今年の

「甲辰」はどうしてもその殻を破ることが難しくなる。そうすると、今年は妨害の方が強いから、芽の伸び方が苦しいので、新芽が伸びていく次の段階が重要となります。来年の「乙巳」ではいかなる抵抗も排除してでも、従来の旧体制のいろいろの問題に終止符を打ち、そうして新しい体制を堂々と進めていくことが必要になります。これを誤ると再来年は「丙午」という厄介な年に陥るとの見立てです。まさにフルサト・マルカグループの中期経営計画の道筋を描いたものです。信念をもって、掲げた計画を遂行、達成し、お客様に変化の先まで伴走した結果、グループ社員全員が幸せを感じる一年としましょう。

いよいよ今年から中期経営計画の2ndステージに入ります。2ndステージは成長加速化として、新しい事業の分野や、新しい方のビジネスへの取り組みなどによって、これまでの延長ではない新たな成長をスタートさせる期間であると謳っています。

まさに今年の干支「甲辰(きのえたつ)」の意味する、理想に向かって辛抱強く、かつ慎重に、いろいろの抵抗や妨害と闘いながらも歩を進めていく1年です。皆さんの一人ひとりが「アナロジー」と「アレンジ」を発揮して、あらゆる場面で様々な新しいものを生み出していきましょう。

以上

新たにグループに加わりましたティーエス プレジジョン株式会社をご紹介します。

錦帯橋で有名な山口県岩国市に本社および工場を構えるティーエスプレジジョン(株)は、フォーミングマシンや等速ジョイント加工機的设计・製造・販売を行っており、自動車業界を中心に、国内外の多くのお客様に製品を採用いただいております。



製品紹介

フォーミングマシン

コイル材から一定のピッチで素材を送るフィード装置、材料を潰したり、打ち抜き加工を行うスタンピング装置、複雑な曲げ成形を行うフォーミング装置から構成された塑性加工機のこと。



電気・電子部品

会社概要

会社名 ティーエス プレジジョン株式会社
 創立 1995年12月6日
 資本金 5,000万円[(株)マルカ 全額出資]
 代表者 代表取締役社長 佃 保宏
 本社・工場 山口県岩国市日の出町2番36号
 事業所 松山事業所
 営業所 名古屋営業所
 営業品目 フォーミングマシン
 等速ジョイント加工機
 特殊専用工作機械
 部品加工
 従業員 73人(2023年9月現在)
 URL www.tsprecision.co.jp



岩国 本社&工場



会社概要

- 1945年 ● 帝人製機株式会社(現ナブテスコ株式会社)設立
- 1995年 ● 帝人製機(株)より分離・独立
帝人製機プレジジョン(株)となる
- 2003年 ● ティーエス プレジジョン(株)に社名変更
- 2023年 ● 「株式会社マルカ」が
当社株式100%取得により、
マルカのグループ企業となる



等速ジョイント(CVJ)加工機
 自動車用等速ボールジョイントを無人加工
 できる高速・高精度専用工作機



東京支社リニューアル

フルサト・マルカグループでは、東京地区の拠点統合を進め、11月27日よりマルカ東京支社と同フロアにてフルサト・マルカホールディングス株式会社とグループ内のセキュリティデザイン株式会社が業務を開始し、シン・東京支社がスタートしました。統合後の東京支社は計90名近い人数となりましたが、これまでのマルカ単体での在籍社員数が40数名だったことを考えますと、おおよそ倍の大所帯となったこともあって、オフィス全体が活気づいた気がしています。

統合で変わった点は単に在籍人数だけではありません。オフィスのレイアウトも大きく変化しました。机の配置や会議室の数、各種備品の置き場までイチから見直すこととなり、その結果、従来の東京支社とは大きく生まれ変わることになりました。

中でも一番の変更点で、かつ統合プロジェクトの目玉となったのが一部の部署を除いた『デスクのフリーアドレス化』です。フリーアドレス化の狙いの一つとして部署間・企業間の垣根を超えた闊達なコミュニケーションを促進する、ということが挙げられます。

いきなりの変化にまだ慣れない事も多いですが、部署や組織だけにとらわれず同じオフィスに在籍するあらゆる社員と、より一段とコミュニケーションが取りやすい状況になったのではないかと思います。

今回の統合がフルサトマルカグループが目指す事業会社間のシナジーを生み出すにあたっての大きなかけ橋とってくれればと思います。シン・東京支社の活躍にご期待ください。
(東京支社 森本 和幹 記)



今回新たに設置されたテレキューブです。シン・東京支社には最大4人まで使える大き目のテレキューブ2台と1人用のテレキューブ2台合わせて4台が設置されることになりました。近年増加するWEB上での会議や動画を視聴してのセミナーなどに対応しています。



新設されたファミレスブースです。2~4人での使用を想定していて、ここでは主に社内での打ち合わせやミーティングで使用する予定となっております。このブースは予約不要で気軽に使用できるほか、個室の会議室と異なり部屋の四方が仕切られているわけではないので開放的な雰囲気の中で打ち合わせを行うことができます。



元々、中会議室だった部屋を新しくレイアウト変更しました。椅子やテーブルは自由に動かすことができるので、くっつけて大きなテーブルにしたりこのままの配置で少人数での利用も可能です。主に休憩時間や昼食での利用を想定しています。



海外赴任の決意



PM
濱田 卓郎

10月1日付けマルカフィリピン赴任を拝命致しました。海外赴任はインドネシアに続き2か国目となりますが、今回は責任者という立場を拝命し、フィリピンという新しい国・文化・人と働くワクワク感がある一方、責任の重さに不安を抱きながらの赴任となっているところは前回とは大きく違っているところでもあります。

マルカフィリピンですが、マニラに事務所を構え、私含め総勢11名で日々営業そしてサービス活動に従事しております。マニラのあるルソン島を中心に南はセブ島、

そしてセブ島の東に位置するマクタン島を活動範囲としております。

フィリピンは人口1億2,500万人。2050年には1億5,000万人になると予想されています。また人口ピラミッドも綺麗な三角形をしています。(フィリピン人の平均年齢24.1歳)

人口が増え、国民1人当たりのGDPも増加傾向にあることから国内での消費が増え、様々な物の需要が高くなることが予想されることから国内需要産業の部分で何かUnisol提案が出来ないか画策、思案しているところであります。

最後になりますが、マルカフィリピンの今後の発展に少しでも寄与できるよう鋭意専心努力する所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



Selamat pagi!

10月1日よりマルカインドネシアに赴任しました、山下知宏です。2019年にマルカ(TI)へ中途入社後、5年目での海外駐在となりました。(前職は丸4年、繊維商社という畑違いのところいました)

インドネシアに来るのは今回が初めてで、空港を降りたときには排気ガスの濃さを体中で感じました。また赴任当初は朝4時から鳴り響くアザーンで目が覚めてしまい、そこから眠れない…という日も。ですが慣れとは怖いもので、今では排気ガスを気にすることもアザーンで目が覚めることももうなくなりました。インドネシアだけではなく、仕事でもプライベートでも日々いろいろなトラブルがあります。(なんでそんなことが…ということも多々…)そんな時はいい意味で割り切りながら、自分にできることに集中するため、【Hanya tuhan yang tahu(神のみぞ知る)】という気持ちで取り組んでいます。



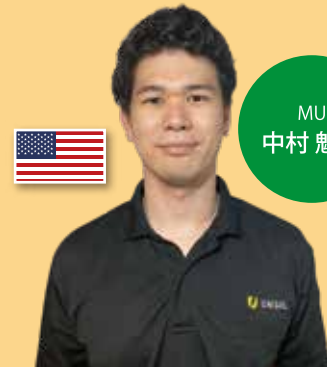
東京支社勤務時は多くの方にご迷惑をおかけしました。それでもどうかやってこれたのは、それ以上のサポート・ご協力があったからです。

インドネシアへ赴任しより一層痛感することは、周囲の助けがないと自分ひとりでは何もできないということでした。言葉の壁もありくじけそうになることもありますが、自ら人と関わることを大切にしながら邁進してまいります。最後になりますが、東京支社時にお世話になった方々、誠にありがとうございました。今後ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。インドネシアでも新しいユーザー、新しい業界に入り込めるよう頑張ります!

Sampai bertume lagi! (また逢う日まで!)



MI
山下 知宏



MU
中村 魁 冨

こんにちは。

この度、マルカ・アメリカ社に赴任となりました中村魁冨です。私は2019年入社、経理部配属となり5年目を迎えました。経理部在任中には皆様には大変お世話になりました。ご迷惑をお掛けしたことも多々ありましたが、寛大な心でサポートをしていただき誠にありがとうございました。特に入社してから熱心にご指導いただきました経理部の皆様には、本当に感謝しております。

私が勤務しておりますのはミズーリ州西部にあるマルカ・アメリカの本社で、アメリカの中心近くに位置しております。果てしない大空と大地が広がっている自然豊かな素晴らしい土地です。昨年スーパーボウルを制したフットボールチーム、カンザスシティ・チーフスが拠点を構えており、シーズン中はかなりの盛り上がりを見せております。外出すると必ずと言っていいほどチーフスのTシャツを着た人を見かけるほど人気のチームです。現在はAssistant Accounting Manager

として現任者からの引継ぎをうけながら働いております。日本在任中に比べ仕事の範囲も広がり、やりがいとともに非常に大きな責務を感じております。

今回が初めての海外勤務となり日々不安と期待を持って働いております。文化の壁・言葉の壁がありますが、日々勉強し克服していきたいと思っております。今回の海外での経験は自分にとってすごくいい経験になるのは間違いありません。より一層努力し、マルカ・アメリカ社ひいてはグループ全体の発展の一翼を担いたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



内定式



10月2日(月)に2024年新卒者の内定式を執り行いました。

昨年まではマルカ単体で実施していましたが、今年はマルカ・フルサト工業・ジーネット・岐阜商事の4社合同で実施となりました。内定式では、ホールディングス古里社長から内定者へ、「会社とは“自己実現”の場であり、仕事を通じて、“なりたい最高の自分”を目指してほしい。また様々な価値観を尊重し、受け入れ、そして新しいアイデアを出して活躍していただきたい」という言葉とともに、最後は「残り半年間、健康に留意しつつ、有意義な学生生活を送り、様々な経験をしてください。」と締めくくられました。

内定者は緊張した面持ちではありましたが、それぞれが入社までに取り組むことや入社後の抱負などの自己紹介を行いました。

内定式後には、グループ4社での交流会も開催しました。各社の垣根を超えた繋がりを形成し、グループとしての一体感醸成とともに今後のシナジー効果の発揮を期待します。

また今年度も内定者研修の一環として、日経新聞の購読を3ヵ月間実施や、貿易実務検定C級の取得にチャレンジします。

入社まで残り半年、様々なことにチャレンジをして、来年4月の入社式に再会できることを楽しみにしております。

(人事部 福本 直弘 記)



OB会総会開催

マルカOB会総会が10月19日に大阪・梅田で開催されました。

当日は秋晴れの下、関西一円にお住みの方を中心に、遠くは関東、中国地方からもお越し頂き総勢23名の方々がご出席されました。いつもお馴染みのお顔に加えて、10年以上もご無沙汰している懐かしいお顔が集うことになりました。マルカからは竹下会長、飯田社長、並びに事務局2名が出席しました。

総会は開会に先立ち鬼籍に入られた方々への黙とうを行ったうえで、会則、細則の変更、役員を選任等の決議事項及び活動報告等の報告事項を滞りなく進めました。今後は女性OBへの門戸を広げて、今以上にOB会の行事にご参加いただける術を模索して参りたいの方針がありました。総会に引き続いて懇親会が開かれました。

懇親会ではK野さんによる乾杯のご発声でスタートし、皆さま久しぶりの再会に盃が次から次と重ねていく中、歓談の話題も現役当時の昔話から孫など家族の話に加えて、最後はやはり自身の健康の話に行き着き、いたるところで大きな盛り上がりを見せました。あちらこちらで座る席を入れ替えては時間一杯まで盃を酌み交わす楽しいひと時となりました。最後には阪神タイガースの18年ぶりのセリーグ優勝を祝して、更には翌週から始まる日本シリーズでの日本一達成への願いを込めて、全員で球団歌「六甲おろし」を声高らかに歌い上げて会がお開きとなりました。

OBの皆さまが会社の礎を確かなものに築いていただいたお陰で、現在のマルカがあることに改めて感謝するとともに、OB皆さまの今後のご息災をお祈りして会場を後にしました。

(秘書室 佐藤 壮彦 記)



MM会総会開催

「2023年MM会総会」が、いつまでも続いた夏の暑さから一変して肌寒さを感じる立冬の11月8日、9日に静岡県浜松市で開催されました。MM会は1997年に7社で発足したマルカとメーカーとが共存共栄を目的とした会で、現在の会員数は26社です。総会はこの3年間はコロナ禍にあって開催中止や、リアルとWEB会議を併用しての開催を余儀なくされましたが、今年は全面的にリアルで会員様と同じ場所に集まって開催することができました。

最初に会員の搬送装置、自動化システムのメーカーである(株)ワイエムジー様を訪問しました。YouTubeの動画を交えての座学の後、工場の一隅に設けられた展示場「CARRIER PARK」にある自動化搬送システムを様々な方向から装置の動作の細部に至るまで見学することが出来ました。皆さま装置の動きを食い入るように見るとともに、次から次と質問が飛び出す結果、予定した出発時間はあっさりとオーバーとなりました。皆さまともに搬送関係の効率化、自動化には非常に関心が高く興味は尽きなかったようで、今度はユーザーと一緒に見学に来ようとの声も上がっていました。人の動きがコロナ禍以前と同じになれば、会員の皆さま同士がお互いの技術を自社製品に取り入れるシナジーをますます活性化できると感じました。



続いて場所を浜名湖畔のホテルに移し、「自動車の電動化状況と駆動用モータの基礎について」と題して、マルカの顧問でホンダ技術研究所ご出身の貝塚正明氏による技術講演を行いました。普段手に入るデータから少し踏み込んだ貝塚氏独自の視点を織り交ぜてのお話に加えて、質疑応答では業界の裏話に近いようなお話も聞くことができました。自動車産業の将来を考えるベースとなる知識をバージョンアップする為には非常に有用なお話であったと思います。

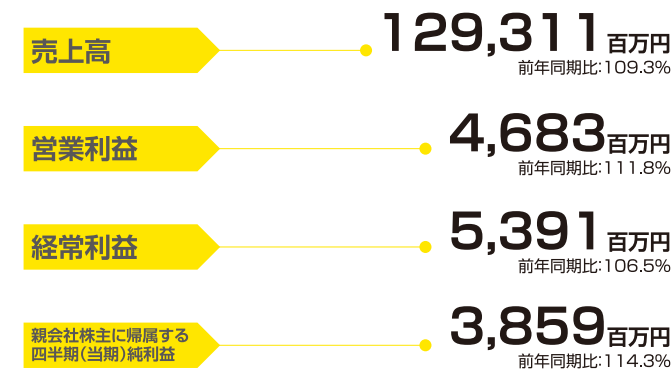
今年の総会では、久しぶりにお顔を合わせる方々も多い中で、経営層の若返りが少なからず進んだことから、懇親の場では大いに盛り上がりを見せ、スーツ姿では見ることができないキャラクターのダイバーシティを垣間見ることができたとても楽しく大変有意義な2日間となりました。

(秘書室 佐藤 壮彦 記)

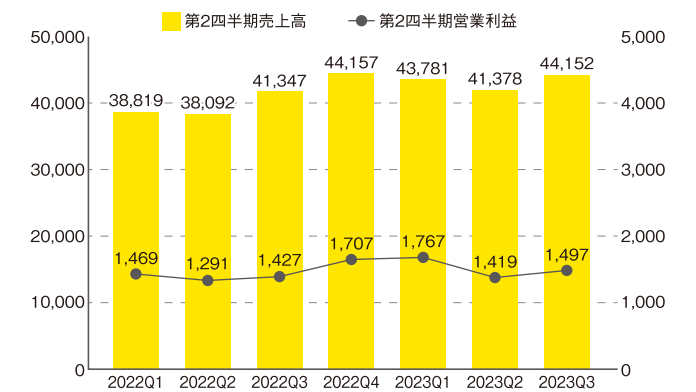
2023年12月期 第3四半期決算発表を行いました

フルサト・マルカホールディングス株式会社の第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は129,311百万円と前年同期比11,052百万円増(9.3%増)となりました。損益面では、営業利益は4,683百万円と前年同期比495百万円増(11.8%増)となりました。経常利益は5,391百万円と前年同期比327百万円増(6.5%増)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,859百万円と前年同期比482百万円増(14.3%増)となりました。

2023年12月期 第3四半期 連結決算サマリー



フルサト・マルカホールディングス 第3四半期業績推移



マルカの動き

- 10/2 2024年新卒者内定式
- 10/11 経営会議、営業会議
- 11/8・9 MM会総会
- 11/27 東京支社にHD、セキュリティデザイン受入
- 12/4 FY2024計画委員会
- 12/28 業務納式



新宿花園神社西の市 東京産業機械第三部

